



第3号 2013.4.20 発行
 発行者：株式会社協進印刷
 編集者：JO 編集委員長 石井健太郎

若い人はもつと海外に出て、 世界の現実を体感してほしいね。

大江電機株式会社代表取締役社長 大江光正さん



●大江電機株式会社
 一九四七年創業。制御機器、電設資材、システムエンジニアリングの商社。
 企業の目的は人の成長との信念のもと「人本主義経営」を企業理念に掲げ
 る。日本国内のみならずアジア全域に積極的に事業を展開。来年5月には
 テルヤ電機との経営統合を控え、更なる飛躍が期待される。
<http://one.jp/>

財団法人横浜企業経営支援財団では、台湾の政府組織である台湾貿易センターと連携してインターンシップを実施しており、大江電機さんと弊社は三年前よりインターンの受け入れ協力をしています。今年1月から2月にかけて実施されたインターンシップを終えて、大江社長にお話を伺いました。

江森：台湾から研修生を受け入れて、社内
 に何か変化はありましたか。

大江：うちの場合は中国でビジネスを展開
 していて、その立ち上げから現地でのマネ
 ジメントを、日本で採用した中国人に任せ
 ています。最初は慶応大学の大学院卒、次
 は横浜国大の大学院卒の、両方とも女性で
 すが、日本人ではまずそんな優秀な人材は
 採用できませんし、言葉はもちろん現地の
 商習慣がわからないと話にならないと思っ
 たので、最初から外国人を採用しました。

そういう実績があったので、外国の人たち
 と一緒に働くということには違和感がな
 かったのです。

しかしそうはいつでも、うちはプロパー
 の社員ばかりですから、外の人たちと交わ
 るという経験が少ない。今回のインターン
 シップを通じて、せっかく遠くから来る研
 修生に何か持って帰ってもらおうと色々考
 えたり、飲みに入れて行ったり、そういう
 ことを厭わずにやれるようになってきたこ
 とは、社員にも大変良い経験になったと思
 います。

江森：そうですね。私もインターンシップ
 は会社の良い影響がたくさんあると思っ
 ているのですが、一般的にはあまり積極的
 に受け入れるという雰囲気ではないように感
 じます。何が障害になっているのでしょ
 うか。

大江：中小企業の場合は経営者が決めれば

良いだけの話だから、経営者にそういう意
 識があまりないということでしょう。日本
 は島国だから積極的に新しいことに取り
 組むというよりは、限られたものの中で守
 るという意識が強い。そういう影響もある
 と思いますよ。私なんかは「おお、いいじや
 ないか」ということで、どんどん受け入れ
 ちゃうから社員も抵抗できない（笑）。

江森：若くて優秀でやる気もある人が、た
 とえ短い期間でも一緒に働いてくれるのは
 楽しいですよ。

大江：大いに刺激を受けますね。

江森：先ほど言われていた「守る」という
 意識のせいかな、どうも企業に元気がありま
 せん。もつともいまは「アベノミクス」で
 ちよつと盛り上がっているようにも見えま
 すが、全体的には停滞ムードの中で、それ
 が故に若者の職場もなくなっていくという
 悪循環に陥っていると思います。若者に仕

事を作るためにも、企業は新しい価値を生
 み出さなければならぬと思います。

大江：うん、それはねえ、私は両方に責
 任があると思いますよ。経済がグローバル
 な競争に入ってしまったが故に、日本の企
 業が社会保障も含めて人件費を負担するこ
 とが相当なリスクになってしまっている
 という現状があります。右肩上がりの時代と
 違って、新たに人を雇うということのリス
 クが、かなり大きく感じられるようになって
 きています。

一方で若い人の仕事に対する意識が
 ちよつと低すぎるといふ問題もあると思
 います。「食えちゃつ」といふことね。確
 かに独身で親元にいれば働かなくても食べ
 るぐらひは食べていけるんだらうけど、やっ
 ぱり自分で食べて行くんだという責任感
 持たないと…。働く場がないというけれど、
 コンビニのアルバイトだってフルにやれば

月に二十万ぐらいは稼げるわけで、安いアパート借りて生活していくとぐらいい十分できるはずなんです。それをしないで親のところまで仕事もしないでぶらぶらしてる。国は二トの支援策とか色々言ってるけど、自立する気のない者にいくら支援したって意味ないでしょう。溺れてるから浮き輪を投げてやってるのに、掴まらなじゃ仕方ないよね。

江森…しかし、掴まらなければ死んでしまうわけですよ。それでも掴まらないうのは何故なのでしょう。

大江…実際にはそれでも「食えちゃう」わけです。私の父は戦争に行きましたから、戦地で食べるものがなくて大人が醜く争う姿なんかを見ていて、良く話を聞かされました。今やらなければ食べられないかもしれないと思えば人間はがむしやらになるものですが、今はそういう時代ではないということが根っこにあるのです。

江森…確かに食べられないということになれば誰だって必死になるといえるのはわかるのですが、そうなるまで気がつかないというのが、どうにも悲しいことだなあと思います。このままではいつか食べられないような状況になってしまうかもしれないから、今がんばっておこうとどうして思わないのかと…

大江…自衛隊の特殊訓練では、最低限の装備で食料を持たせず1週間富士山のふもとに放り出されるのだそうです。そこで草の根っこや、ヘビやネズミを食べて生き延びる訓練をするのです。人間を鍛えるというのは、まずいかに食べていくかということから教えるべきなのであって、小学校でもサバイバル訓練をやってみればいいと思



江森…学校も家庭も企業も面倒見が良すぎたのでしょうか。

大江…弊社でも研修という担当者が事細かに準備をしようとするのですが、私はそこまですると言っています。手取り足取り教えることが本当に人の成長の役に立つ

若者に新しい仕事を作ることも、企業の社会的責任ではないでしょうか。

大江…私は以前からカンボジアの孤児院の支援をしているのですが、寄付しているNPOがこの4月に現地に学校建設をするのとなり、先日その贈呈式のためにカンボジアに社員2名を連れて行ってきました。アンコールワット観光の拠点であるシェリムアップからわずか三十分ぐらいのところですが、それはそれは貧しいところです。今回の贈呈式にも村の人たちがたくさん参加していたのですが、彼らがなぜ来ているかといえば、記念品が目当てなのです。それも250グラム入りの化学調味料。その記念品にいい大人が群がるわけですね。一緒にいった社員は四十過ぎぐらいのが2人

かというところ、決してそうは思いません。いか大きな問題に巻き込まれたときに、あまりにも手取り足取り教えられた人間は自分で解決することができない。いちいち相談にきて言われた通りにやって、解決したような気になっているけれど、それは本人の成長にはつながっていないと思います。江森…自らの成長を自覚しにくい時代背景もあるように思います。

大江…長期的なことで考えれば、やっぱり教育は大事です。単に数学がどうの歴史がどうのということではなく、ひとりの人間として、いかに生きて、いかに生活していくか、そこにひとり一人の責任があるのだということを引きちゃんと教えていかなければなりません。

大江…彼らはよく勉強しているし興味の幅が広い。昨年台湾から入社した社員がブログを書いているのですが、視点がユニークでおもしろいですよ。2人で台湾での事業立ち上げしてもらおうかと考えています。江森…弊社もインターシップを自社に活用できるようにがんばりたいと思います。また来年も一緒にできることを楽しみにしています。本日はありがとうございました。

大江…彼らはよく勉強しているし興味の幅が広い。昨年台湾から入社した社員がブログを書いているのですが、視点がユニークでおもしろいですよ。2人で台湾での事業立ち上げしてもらおうかと考えています。江森…弊社もインターシップを自社に活用できるようにがんばりたいと思います。また来年も一緒にできることを楽しみにしています。本日はありがとうございました。

江森…大江山社長は私にとっては青年会議所

の大先輩でもあるわけですが、青年会議所の活動から生まれたNPOである横浜スタンダード推進協議会で今年から若者の就労支援をやりたいと思っています。まさに先ほど大江山社長が言われた、自分の人生をいかに生きて行くのかを考え、その組立を自分でできるスキルを身につけられるような「キャリア教育」ができたかと考えています。大江山社長にも是非先生としてご協力お願いします(笑)。

大江…成長とは、本人が変化するということと、自分の幅を広げることです。同じパターンの繰り返しではなく、今までと違うプロセスでできるようになるということが成長なのです。そういうことを教えていってください。

江森…貴社では昨年に続き今年も台湾のインターン生を正式に採用されたそうで、これから楽しみです。

大江…彼らはよく勉強しているし興味の幅が広い。昨年台湾から入社した社員がブログを書いているのですが、視点がユニークでおもしろいですよ。2人で台湾での事業立ち上げしてもらおうかと考えています。江森…弊社もインターシップを自社に活用できるようにがんばりたいと思います。また来年も一緒にできることを楽しみにしています。本日はありがとうございました。



国境を越えた出会いに感謝！

今年も台湾インターシップを実施

弊社では毎年、海外からの研修生を受け入れインターシップを行っています。今回で三回目となる今年は、1月18日〜2月6日まで台湾政府が主宰する「T-1 国際企業人材育成センター」から洪貞観さんという23歳の女性を受け入れました。

洪さんは大学で日本語を始め英語やスペイン語を学び、将来は日本と関わりの深い仕事を希望しており、今回の研修で日本に来ることを一年前からずっと楽しみにしていたそうです。まず驚いたのが、乾いたスポンジのようにとにかく食欲に日本の言葉や習慣、会社の業務や文

化の事をどんどん吸収していく、そのやる気に満ち溢れた研修態度でした。

私たちも彼女の意欲的な姿勢に影響され、もつと日本を知って喜んでもらえたいとは思いませんか？

休日も洪さんを誘って東京の下町散策や、横須賀・江の島・鎌倉巡りに出かけました。洪さんの新鮮な視線と共に行動することで、私たちも日本の魅力を見直したり、台湾の習慣や文化についても色々学べる良い機会になりました。

今回はCool Yokohama Projectの日本の学



生のインターシップも同時期に受け入れ、共同で弊社が毎月行っている「ありがとの日」の企画案と一緒に考えてもらいました。

「葉」を作成してみようということになりました。葉にはスタッフの似顔絵イラストと台湾の格言や歌詞などから感謝のコトバをセレクトする他、「支えてくれてありがとう！いつも笑顔

で健康第一」といったオリジナルの格言なども考えてくれました。限られた時間の中、毎日遅くまで検討を重ね制作し、目標としていた関わりがあったお客様に直接手渡しすることもできました。

研修の最終日「今回の研修を通じて得られた思い出は宝物です」と言ってくれた時には私も感激して涙がこぼれてしまいました。国際交流などと言えば大袈裟ですが、異国の方とも気持ちが通じ合えることがこんなにも嬉しいことは知りませんでした。私たちがまさに宝物といえる貴重な経験となりました。

これからも仕事を通じて、お客様様達からもっと深く、たくさん「ありがとう」を頂ける活動を続けていきたいと思えます。(山口正規)

線路と街と

第三回 「謎の巨大シエルター」

文・写真 石井健太郎

正体を知る人は、実はあまりいないのかも知れません。大口の町を、東西に横切る長大な高架線。高速道路でもない。新幹線でもない。その姿はドーム状にコンクリートで覆われ、中を確認することはもちろん、近づくことすらためられるその容姿は威風堂々、それでいて不気味な存在なのであります。

東海道貨物線。

昭和五十四年、東海道線と横須賀線の分離運転を機に誕生した、貨物列車専用のバイパス路線が、その正体です。堂々複線電

化、日本有数の物流の大動脈が、大口の街を跨いでいるのです。ドームで完全に覆われてしまっているのは、近隣住民への配慮した騒音対策です。昼夜通してかなりの本数が通過して行くので、確かに騒音問題への対策は当然と考えますが、貨物列車好きなきな僕に



京急生麦駅付近でトンネルに入った東海道貨物線は、横浜羽沢駅を経由して、東戸塚駅付近で再び本線に合流する。

とって、姿が見えない貨物線はともいじらしい存在です。しかも、列車が通るたびに微かに響く「カタタン」というジョイント音。僕の想像は膨らむばかり。

中身を見せてくれないうその巨大なシエルターは、謎にまつま

れているのです。しかし現在、相鉄線の都心直通プロジェクト一環で、相鉄線からJRへ直通するという計画があり、相鉄線の西谷駅から新線を建設し、この東海道貨物線の羽沢駅へ繋ぐという

大工事が密かに進行中なのです。相鉄線がJR線に乗り入れて、しかも都心へ向かうなんて、元相鉄線沿線生まれの僕からすると夢のような話なのですが、実現すればこのシエルターの中を旅客列車が頻繁に走るようになり、相変わらず中身は見えないながら、どこことなく賑やかな雰囲気になることでしょう。何より、乗車して中を通過するのが今から楽しみです。(現在も一部ライナーや臨時列車は運行中。)

もしここを旅客列車が定期的に走るとなれば、新たな欲が出てきます。JR横浜線の大口駅から北方約三百メートルと決して遠い距離ではありません。大口駅を設けて欲しいという願いは、自然な願望なはず。実は

以前より、旅客列車を走らせて大口駅を新設するという案は出ているようで、鉄道雑誌やファンの間のブログなどでも、度々紹介されてきました。しかし地元との兼ね合いなど様々な事情から、実現はなかなか難しいようです。

新駅の設置は地元の活性化になりますし、貨物線周辺の宅地化も進んでいるので、東京方面へ直通できる駅があれば便利になると思うのですが、きっと僕の知らない大人の事情が色々あるのでしょう。まずは直通プロジェクトの完成予定である平成二十七年三月を、楽しみに待ちたいと思います。まだ直通運転のことを知らなそうな、物静かなシエルターに思いを馳せながら…



情報セキュリティ認定取得！
神奈川県印刷工業組合のPISSM認定制度

昨年度よりスタートした神奈川県印刷工業組合の個人情報保護および情報セキュリティマネジメントシステム

の認定制度「PISSM」の第一期認定（情報セキュリティ一般）を取得しました。
これまで社内基準での情報セキュリティマネジメントシステムは運用してきまし



たが、弊社にとっては念願の外部認定取得となりました。私たちは個人情報だけでなく、お客様の大切な情報をお預かりする立場にあります。この度の認定規格を活用して、これまでよりもっと安心していただける取り組みをしていきたいと考えています。

横浜型地域貢献企業認定制度
2回目の更新認定を取得

平成二十一年に初取得以来、今回で二回目となる更新認定を取得しました。今回の認定における弊社の特徴的は取り組みをご紹介します。
○地域貢献の項目では本紙でも度々ご紹介している「Cool Yokohama Project」によるインターシップの実施。今年も引き続き積極的に受け入れる計画です。
○財務・業績および消費者顧客対応の項目では、



株式会社能登屋

大口の魅力を紹介していく「大口自慢」三回目の登場は、さつま揚げの名店「能登屋」さんです。

創業八十一年の老舗、大口通商店街の中でもひとときわ風格を感じる店構えです。味見させて頂いたのは

お勧めの季節限定商品「サクサク蓮根」。口の中に広がる蓮根の風味、何とも楽しいサクサク感。ご飯やお酒のお供はもちろ



株式会社能登屋

横浜市神奈川区大口通二二七-五
電話：045(431)1236(代)
<http://www.notoya-net.co.jp>



おやつ感覚で楽しめる気軽さもいいです。ご近所だけでなく、遠方にファンが多いのも納得のさつま揚げ、ごちそうさまです。
お土産、贈り物にも自信を持ってお勧めできる「能登屋」さん。市内5店舗のほか、通販もしています。まだまだおでんの美味しい季節です。是非チェックしてみてくださいね。

東京を旅しよう。

東京を旅する塗りつぶしダイアリー「Paint Out 2013」好評発売中！ ■取扱店：書泉グランデ6F(神保町) 書泉ブックタワー5F(秋葉原)

Paint Out

B6版カバー付き(4色) 248頁
¥1,200(税込) ※送料別途



Diary for Strolling Around Stations in

FacebookにてPaintOutの旅、実況中。

<http://www.facebook.com/paintoutdiary>

CO2 排出量実績

2011年度	34.8 t-CO2
2012年度	35.7 t-CO2
前年比	102.6%

編集後記

寒かった冬を越え、春の喜びを感じさせた桜はとうに散ってしまい、気づけば新緑のまぶしい季節になりました。春号となったJ.Oの第3号、今号も沢山のご協力のもと、満を持しての発行となりました。皆様お楽しみいただけましたでしょうか。

本文にもございますように、弊社では台湾からのインターシップ研修生を受け入れております。毎回二十日間程度と短い期間ではあるのですが、彼ら彼女らの「日本で何でも吸収してやるぞ」という意気込みに少しでも応えようと、私も全力で迎えます。立場的に教えることが多くするのは当然なのでしょうし、そうでなくてはいけないかも知れませんが、毎回僕が感じるのは、教えられることが実に沢山あるということ。洪さんと東京散策、そして横須賀、鎌倉と日帰りの観光に出かけたりしたのですが、この時間を少しでも無駄にしないという貪欲さが言動に表れており、それならばと応戦しようとする、案内する側の僕にも新しい発見があったりと、多々気づかされることがありました。

「もし自分が台湾と同じ立場で研修に行きたなら、同じような行動が取れるのか。」初心にかえらせてくれるのもインターシップの交流があつてこそ。来年はどんな研修生がやって来るのか、今から楽しみです。さて、ゴールデンウィークが間近に迫ってきました。今年は国民の景気回復への意識が高いせいか、例年に比べ旅行に出かける人が多いようです。新幹線の混雑や、高速道路の渋滞が頭を過り、出不精になっている方はどうぞ遠慮なくご相談下さい。楽しいお出かけのご提案をさせていただきます。近年の統計では晴れの日の確率が高いようです。素敵な休日になりますように。

協進印刷JO編集長

